

令和元年度 基本施策評価シート

作成日 令和元年6月21日

| | | | |
|------------------|---|--------------------------------|------|
| 基本施策 | G1 次代を生きぬく子どもを育みます | | |
| 施策の目的 (対象と意図) | 対 象 | 意 図 | |
| | 子どもが | 将来の夢や希望を自らの言葉で語り、実現に向けて努力している。 | |
| 基本施策主管課名 | 学校教育課 | 所属長名 | 大塚 潤 |
| 関係課名 | 教育研究所、健康教育課、教委総務課、施設課、生涯学習課、市立図書館、こどもみらい課、幼児課 | | |

基本施策の評価

Cc 目標を一部達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

判断理由

【基本施策評価結果】

- ・基本施策の成果指標の2つのうち、100%以上の目標達成率が1つと半数で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「C」とする。
- ・個別施策の成果指標の9つのうち、100%以上の目標達成率が2つと半数以下で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「c」とする。

【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】

- (1) 学力調査結果は経年経過をみると向上してきており全国平均との差が縮まってきているが、いまだに目標値を下回っているため、さらに効果的な研修や訪問指導を行う。国際理解教育はALTの活用や交流イベントやスピーチコンテスト等、取組みは定着しつつあるが、すべての学校や子どもたちに対する取組みが必要である。
- (2) 「被爆体験の継承」「平和の発信」に加え「平和の創造」の3つの柱に基づいて平成29年度に作成した「平和教育手引書」に則った平和教育を始めたが、年数が短いため十分に浸透していない。
- (3) 家庭教育の推進のために、メディアをテーマにした研修会等を開催し、メディア使用のルールづくりが浸透してきたが、保護者と児童生徒との認識の違いがみられる。
- (4) 教育環境の改善を図るにあたり計画的な整備を行ってきたが、小規模化する学校がある一方、児童生徒数の増加による教室不足等もある。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

| 指標名 | 基準値 (時期) | 区分 | H28 | H29 | H30 | R元 | R2 |
|---------------------------------------|-----------------|-------|-------|-------|--------|------|------|
| 夢や目標を持っている 小中学生の割合 | 78.5% (27年度) | ↑ 目標値 | 79.5 | 80.5 | 81.5 | 82.5 | 83.5 |
| | | 実績値 | 76.8 | 77.7 | 77.2 | | |
| | | 達成率 | 96.6% | 96.5% | 94.7% | | |
| 自分によいところがある と思う小中学生の割合 | 74.8% (27年度) | ↑ 目標値 | 75.8 | 76.8 | 77.8 | 78.8 | 79.8 |
| | | 実績値 | 74.1 | 75.3 | 82.3 | | |
| | | 達成率 | 97.8% | 98.0% | 105.8% | | |
| 難しいことでも、失敗を 恐れなくて挑戦している 小中学生の割合 | 71.4% (27年度) | ↑ 目標値 | 72.4 | 73.4 | 74.4 | 75.4 | 76.4 |
| | | 実績値 | 70.3 | 72.0 | | | |
| | | 達成率 | 97.1% | 98.1% | | | |

*「失敗を恐れなくて挑戦する」という指標は、全国学力・学習状況調査の結果を基にしていたが、平成30年度は項目がなくなったので結果は出ていない。しかし令和元年度調査では再度調査項目が戻っているため、指標はそのままとする。

今後の取組方針

- (1) 学力向上推進のために、全国・県・市の学力調査における成果と課題を分析し、各学校の学力向上の取組みをこれまで以上に充実するよう、研修や訪問指導を行う。また、国際理解教育の推進においては、全ての中学校から2名ずつ生徒を集めて世界で活躍する人の講話を聞いたり、英語を使って観光地を案内しながら長崎の町を散策する「あじさいグローバルリーダー研修会」を実施する。
- (2) 平和教育の推進については、3つの柱による新しい平和教育を推進するため、「平和教育手引書」に基づいた実践を推進する。健やかな身体づくりと基本的な生活習慣の定着推進については、保健体育部会や県主催体力向上事業を活用し、体育時間以外の柔軟性向上ストレッチを実施するとともにストレッチが立派な運動の要素であり、身体づくりの基礎であることの意識改革を行う。
- (3) 家庭教育の推進においては、各家庭でのテレビやゲーム使用のルールが、その後のスマートフォン等の使用ルールに大きく影響してきていることから、「テレビやゲームに関して保護者と児童生徒がお互いよく話し合ってルールを決め、それを遵守する・させる」などの取組みが不可欠であるため、「メディアとの上手なつきあい方」をテーマにしたファミリープログラムやPTAメディア研修会を実施してメディア利用に関する現状と課題等について新しい事例を交えながら講話を実施していく。加えて、多様化しているニーズに応えるため、ファシリテーター（進行役）のスキルアップや新たなファシリテーターの養成を行い家庭教育支援事業を推進する。
- (4) 今後も少子化の進行が見込まれる中、学校での教育活動の効果を高め、次代を担う子どもたちの教育効果を高めるために、学校規模の適正化と適正配置を図り、教育環境整備を推進する。

二次評価（施策評価会議による評価）

- 基本施策の評価「Cc」については、所管評価のとおり。
- 次期総合計画策定に向けて基本施策の成果指標については、能動的に捉えられるような指標を検討すること。

令和元年度 個別施策評価シート

| | | | |
|------------------|--------------------|--------------------------|------|
| 個別施策 | G1-1 確かな学力の向上を図ります | | |
| 施策の目的 (対象と意図) | 対 象 | 意 図 | |
| | 子どもが | 自ら考え、表現できる確かな学力を身に付けている。 | |
| 個別施策主管課名 | 学校教育課 | 所属長名 | 大塚 潤 |

平成30年度 of 取組概要

- ①市学力調査の実施と教職員の指導力向上
- ・市立すべての小学3、4年生と中学1年生を対象とした市独自の学力調査を継続実施し、その結果を基に成果と課題を分析して授業改善に生かすと共に、教員を対象に法定研修や市独自の研修等を実施し指導力向上を図った。
 - ・教職員のICT活用技術の向上のために、日常の授業でのICT活用が具体的にイメージできるよう工夫を取り入れた実践的な研修会を実施した。
 - ・教育の効果を上げるためには、教職員が心身共に健康であることが重要であることから、業務の改善、勤務時間の管理、働き方改革に関する意識改革を進めた。
- ②国際理解教育の推進【A4-1へ再掲】
- ・ALT(外国語指導助手)36名を市立全小・中学校及び高等学校に派遣した。
 - ・中学2年生を対象とした市独自の英語の学力調査を実施した。
 - ・ALTや小学校英語インストラクター(EEI)が、小学校の英語活動や外国語活動、中学校英語科の授業において協同した授業を行うなど、小中連携した9年間の国際理解教育を推進した。また、中学校へ放課後等の時間にEEIを派遣し、希望する生徒への個別指導を行った。
 - ・ALTを活用した交流イベントや中学生英語スピーチコンテストを実施した。
- ③学習支援の充実【G1-3へ再掲】
- ・授業中の支援や「長崎寺子屋事業(放課後等の学習支援)」を推進するため、希望する全ての小学校へ、教員志望の大学生や教職経験者等を学校サポーターとして派遣した。
- ④環境を学ぶ仕組みの整備【D5-1へ再掲】
- ・学校では、生活科、理科、社会科、総合的な学習の時間における環境学習に加え、他教科・領域においても環境問題等に関する学習を実施した。

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

| 指 標 名 | 基準値 (時期) | 区 分 | H28 | H29 | H30 | R元 | R2 | |
|--------------------------------|----------------|-----|-----|--------|-------|-------|------|------|
| 全国学力・学習状況調査の本市平均正答率と全国平均正答率との差 | -0.8 (27年度) | ↑ | 目標値 | -0.4 | -0.4 | 0.4 | 0.8 | 1.0 |
| | | | 実績値 | -0.4 | -0.3 | -0.7 | | |
| | | | 達成率 | 100.0% | 99.6% | 95.6% | | |
| 県下一斉実施の英語科基礎学力調査の本市平均点と県平均点との差 | -1.2 (27年度) | ↑ | 目標値 | -0.7 | -0.2 | 0.3 | 0.8 | 1.0 |
| | | | 実績値 | -0.4 | -1.3 | 0.0 | | |
| | | | 達成率 | 101.2% | 95.6% | 98.8% | | |
| ICTを活用して、学習意欲が高まった小中学生の割合 | 68% (27年度) | ↑ | 目標値 | 70.4 | 72.8 | 75.2 | 77.6 | 80.0 |
| | | | 実績値 | 70.6 | 69.5 | 71.3 | | |
| | | | 達成率 | 100.3% | 95.5% | 94.8% | | |

評価(成果と効果)

| 取組みによる成果 | 5年後にめざす姿に対する効果 |
|--|---|
| <p>①市学力調査の実施と教職員の指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国(中3、小6)と県(中2、小5)と市(小3・4、中1)の学力調査の結果を分析することで、小学3年生から中学3年生までの7か年に渡り、個々の児童生徒の課題に沿った学習指導を行うことができた。 ・教職員によるデジタル教科書等ICTの活用が進んだ。 ・ICカードを利用した出退勤管理を推進することにより、教職員の勤務時間に関する意識改革が進み、校務の軽減のために役立つ統合型校務支援システムの活用推進により、勤務の効率化が進んだ。 | <p>①市学力調査の実施と教職員の指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査を検証軸とした学力向上の取組が徹底され、学力調査の結果が向上し、全国平均との差が縮まった。 ・ICTの効果的な活用により、教職員の指導力が向上したことで、分かりやすい授業づくりにつながった。 ・業務の効率化が少しずつ進み、児童生徒理解や教材研究等の時間確保や子供と向き合う時間が増えてきた。 |
| <p>②国際理解教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTの活用により、英語を用いてコミュニケーションをとる機会が増え、英語力の向上につながった。 ・スピーチコンテストに出場した同世代の英語スピーチを聞くことが刺激につながった。審査員や参加したALTによるとスピーチのレベルが年々高まっているとの声が聞かれる。 | <p>②国際理解教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土長崎への関心を高め、社会の担い手となる中学生として必要な英語力や国際理解の感性の育成に寄与した。 ・中学校卒業までに英検3級以上を取得及びそれ相当の英語力を有している生徒が増えた。(H27:37.9% → H30:51.0%) |
| <p>③学習支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎市内のすべての小学校で、「長崎寺子屋事業(放課後等の学習支援)」が行われ、学習支援の充実が図られている。 | <p>③学習支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援の充実が図られることで、児童の学習意欲が喚起され、学力の向上が図られた。(小6全国学力調査の平均との差 H26:-1.75ポイント → H30:-1.0ポイント) |

評価(問題点とその要因)

| 5年後にめざす姿に対する問題点 | 問題点の要因 |
|---|--|
| <p>①市学力調査の実施と教職員の指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果が、目標値を下回っているものもあるため、学力調査後の結果を分析し、改善へのプランを策定することは、各学校ともに行われているが、プランを実践し、成果につなげる部分については不十分である。 ・教職員の授業中におけるICTの効果的な活用がすべての教員によって実施できていない。 | <p>①市学力調査の実施と教職員の指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力向上を検証軸とした学力向上への取組」について、個々の教師にしっかりと再認識させ、指導力を向上するための研修会や学校訪問等による細やかな指導が十分ではない。 ・ICTの効果的な活用の理解が不十分であり、活用できるデジタル教材の開発ができていない。 |
| <p>②国際理解教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業における取組みは、全ての子供たちへ提供し充実できているが、イベントやコンテストなどは希望者が中心となっている。 | <p>②国際理解教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流イベント等への参加は、英語を学ぶことに興味のある子や家庭の支えがある子が中心となっており、それ以外の子が参加するきっかけづくりができていない。 |
| <p>③学習支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の支援や「長崎寺子屋事業(放課後等の学習支援)」は定着が図られてきたが、派遣している大学生等のサポーターを子どもたちの実態に合うように効率よく活用できていない。 | <p>③学習支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が学習支援のサポーター等の活用方法を十分に理解できておらず、効果が実感できていない。 |

今後の取組方針

①市学力調査の実施と教職員の指導力向上

・「各種学力調査の結果に基づいて、学力向上の取組みの成果や課題を分析することで、各校の学力向上の取組みの更なる充実を図ること」の再確認を行うとともに、調査結果を基にした基礎的基本的な学習事項の重点的な指導や学習指導要領の趣旨に沿った授業改善が充実するように、研究指定校への訪問指導や学力向上に係る研修会を実施する。

・学習指導要領の改訂により、令和2年度から小学校におけるプログラミング教育が導入されることを見据え、教職員への研修会を計画的に実施する。

・これまでの取組みを実効あるものにするため、さらに指導を行うとともに、校務の軽減のために役立つ統合型校務支援システムの導入により業務の効率化を図ったり、カードリーダーで出退勤時刻を把握し、長時間勤務を減らしていく取組みを続ける。

②国際理解教育の推進【A4-1へ再掲】

・小中学生が、給食や休み時間なども含め日常生活の中で外国人と触れ合うことや、中学校の全学級においてALTとの協同授業が週1回以上、可能である状態を保つため、ALT36名を引き続き任用する。

・中学2年生を対象とした市独自の英語の学力調査を実施し、中学生の早い段階から生徒個人の課題に応じた指導が行われるようにする。

・県の学力調査分析結果をもとに、多くの英語教員が実際の使用場面に応じた英語を生徒が話したり書いたりできるような工夫や手立ての充実を図る。

・全ての中学校から2名ずつ生徒を集めて世界で活躍する人の講話を聞いたり、英語を使って観光地を案内しながら長崎の町を散策する「あじさいグローバルリーダー研修会」を実施するとともに、アジア諸国からの修学旅行生や国際クルーズ客船で訪れた観光客との交流など、外国人と児童生徒が直接触れ合う国際交流体験の充実に努める。

③学習支援の充実【G1-3へ再掲】

・「長崎寺子屋事業」の実施状況を確認するとともに、学校サポーターを活用して充実した取組みを行っている方法を広めていく。

④環境を学ぶ仕組みの整備【D5-1へ再掲】

・学校では、各学校の状況に対応した効果的な資料や教材の開発、身近な環境とのかかわりを活用した取組みを行っていくこととし、「環境美化活動」や「ゴミの減量化・リサイクル活動」等の具体的な目標や目標値を設定しての取組みの充実を図る。

| No. | 事業名・担当課・事業目的・概要 | 区分 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-----|---|--------------|--|--|
| 1 | <p>(事業名) 国際理解教育推進費</p> <p>【学校教育課】</p> <p>【A4-1へ再掲】</p> <p>(事業目的) 国際化が進むこれからの時代にふさわしく、自ら進んで交わろうとする国際感覚豊かな子どもを育成を図るために、外国語指導助手(ALT)と外部指導者を全市立小中学校に派遣し、児童生徒が生徒の英語に直接接し、英語に対する興味を高めるとともに、国際感覚を養い、国際理解教育の推進を図る。</p> <p>(事業概要) 36人のALTや外部指導者が、小学校のハローイングリッシュ活動や外国語活動、中学校英語科の授業で担任と協同での授業を行うとともに、国際理解教育のゲストティーチャーを務めて、小中連携した9年間の国際理解教育を推進する。 国際感覚の醸成のために、出島等の市の施設を利用し、外国人と児童生徒が触れ合う交流イベントを開催する。 中学生英語スピーチコンテストを実施し、ふるさと長崎について発信する機会を通して、英語で自分の考えを伝える態度や表現力を育成する。</p> | 実施年度 | 継続 | |
| | | 成果指標 | 長崎県学力調査(中学校英語)の平均点 | |
| | | 目標値 | 43.8 (%、人、円など) | 54.0 (%、人、円など) |
| | | 実績値 | 42.5 (%、人、円など) | 53.0 (%、人、円など) |
| | | 達成率 | 97.0 % | 98.1 % |
| | | 決算(見込)額 | 195,138,653 円 | 196,000,725 円 |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | <p>客観的に英語の学力をはかることができることから、県学力調査(中学校英語)の平均点を成果指標とした。</p> <p>平成32年度の目標値を、長崎市の生徒が県平均よりプラス1ポイントの学力をつけることとしている。目標値に段階的に到達することを想定し、平成29年度の目標値を、「平均点マイナス0.2点」とした。</p> | |
| | | 取組実績、成果・課題等 | <p>(取組実績)</p> <p>36人のALTの雇用を継続し、全市立小・中・高等学校に配置できたことにより、市立各小・中学校で1日勤務を週に1回以上可能となったことは、児童生徒の国際理解及び外国語教育に大いに貢献している。</p> <p>また、小学校低学年を対象に行っている「ハローイングリッシュ活動」では、H28改訂カリキュラムやH28作成デジタル教材を活用した。</p> <p>国際交流イベントは、毎回、高い評価を得ている。また、第5回を迎えたスピーチコンテストには、31校72名が参加した。年々、レベルに高まりが感じられる。</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>県平均及び市の実績ともに前年度より下回っているが、これは採点方法が点数值から正答率に変わり、出題方法も日本語がほぼなくなり英語のみとなったことに不慣れだったことなどが要因として考えられる。出題内容から身に付けさせるべき力を分析するとともに、定期テストや授業における学習プリント等を作成する際、英語の表記を増やす等の取組みを推進する。</p> | <p>(取組実績)</p> <p>ALT専門指導員による、ALTを対象とした授業研究会や小学校教諭への研修会を実施したことで、指導力の向上を図ることができた。</p> <p>小学生が意欲的に外国語活動に取り組めるよう、「外国語活動年間指導計画」「教師用カード」を作成、また小学校低学年を対象に行っている「ハローイングリッシュ活動」では、改訂カリキュラムを作成した。</p> <p>国際交流イベントは、毎回、高い評価を得ており、募集人数を上回る応募数があった。</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>成果指標において、目標値は達成できなかったが、県平均と同等の正答率となり、また、前年度よりも上回った。令和元年度においては県学力調査ではなく全国学力調査における成果の見とりとなる。学力調査の結果や解説資料をもとに分析し、授業改善に生かす。</p> |

令和元年度 個別施策評価シート

| | | | | | | |
|------------------|--------------------|----------------------------------|------|--|--|--|
| 個別施策 | G1-2 健やかな心と体を育成します | | | | | |
| 施策の目的 (対象と意図) | 対 象 | 意 図 | | | | |
| | 子どもが | やさしく、たくましく生きるための豊かな心や体力を身に付けている。 | | | | |
| 個別施策主管課名 | 学校教育課 | 所属長名 | 大塚 潤 | | | |

平成30年度 of 取組概要

- ①平和教育の推進【B1-2に再掲】
- ・被爆73年を迎え、原爆被爆都市として被爆体験を継承し、平和の大切さを発信できる生徒の育成のために、平和教育と道徳や人権教育、生徒指導とを関連付けた指導の充実を図るよう啓発した。
 - ・被爆体験講話を全市立小中学校で実施し、さらに中学校では原爆被爆パネル展を開催した。教職員に対しては平和教育担当者研修会、平和教育講演会、初任者研修における平和教育研修会を年1回開催した。
 - ・平成29年度に作成した「平和教育手引書」を全ての市立小中学校教職員に配付した。そして市立小学校3校、中学校2校を平和教育実践協力校に指定し、新しい平和教育の浸透と、授業実践を通して検証を行った。
- ②読書活動の推進
- ・43人の司書を活用し、図書館教育の充実を支援した。また、年間雇用の司書34人を利用して中学生の読書活動を推進するために長期休業中の中学校の図書館を開放した。
 - ・絵本を親子で読んでもらうことにより、子どもの豊かな感性や心を育み、生涯にわたる読書習慣につなげるために、絵本の引換え券を配布し、公民館等で絵本の引換えを行った。
- ③健やかな身体づくりと基本的な生活習慣の定着推進
- ・基本的な生活習慣の定着と体力向上を目的とした「あじさいスタンダード・体力づくり編」の活用についてを、各学校や保健主事部会等で研修・研究を行った。
 - ・アスレティックトレーナーによる子どもの体力向上事業を実施した。
(平成30年度、小学校3校、中学校3校+平成29年からの継続校2校)
 - ・「ブロック別食育推進協議会」(全校対象)において、「学校における食育の推進について」を提示した。生活習慣の改善等について説明し、各学校での取組みを進めた。
 - ・学習指導要領を踏まえた「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力」の育成を目指すキャリア教育を各学校で充実させるための施策と、長崎のまちを支える担い手を育てるという視点からの長崎市独自の取組みを推進した。
- ④キャリア教育の充実
- ・学習指導要領を踏まえた「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力」の育成を目指すキャリア教育を各学校で充実させるための施策と、長崎のまちを支える担い手を育てるという視点からの長崎市独自の取組みを推進した。

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

| 指 標 名 | 基準値 (時期) | 区 分 | H28 | H29 | H30 | R元 | R2 |
|---|------------------|-----|--------|--------|--------|------|------|
| | | | 目標値 | 実績値 | 達成率 | 目標値 | 実績値 |
| 平和の大切さを自ら発信しようと思う子どもの割合 | 92.9% (H27年度) | ↑ | 93.4 | 93.8 | 94.2 | 94.6 | 95.0 |
| | | | 91.5 | 92.5 | 92.1 | | |
| | | | 98.0% | 98.6% | 97.8% | | |
| 読書が好きな小中学生の割合 (* H30は調査なし) | 72.8% (H27年度) | ↑ | 73.8 | 74.8 | 75.8 | 76.8 | 77.8 |
| | | | 73.2 | 74.1 | | | |
| | | | 99.2% | 99.1% | | | |
| 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、市の体力合計点と全国の体力合計点との差 | -2.3 (26年度) | ↑ | -1.3 | -0.8 | -0.3 | 0.1 | 0.5 |
| | | | -0.8 | -0.6 | -0.2 | | |
| | | | 162.0% | 133.0% | 150.0% | | |

*「読書が好きな小中学生の割合」は、全国学力・学習状況調査の結果を指標としていたが、平成30年度には、調査項目からなくなったため実績値は出なかった。しかし令和元年度には再び項目として調査されるため、成果指標として継続する。

評価(成果と効果)

| 取組みによる成果 | 5年後にめざす姿に対する効果 |
|--|---|
| <p>①平和教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「被爆体験の継承」と「平和の発信」と新たに設定した「平和の創造」の3つの柱による新しい平和教育の浸透を「平和手引書」と研究協力校の取組で進め、すべての学校で実践された。 | <p>①平和教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平和の大切さを自ら発信しようと思う子どもの割合」が95%を超えて継続している。 |
| <p>②読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司書を活用した図書館教育が十分に浸透してきた。 ・絵本への引換率は、前年度を下回ったものの目標をほぼ達成できた。 | <p>②読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1校あたりの図書館利用のべ人数がH29の383人からH30の399人に増えており、読書活動の推進に寄与した。 ・絵本の引換えについての目標への達成率が95%以上を継続しており、生涯にわたる読書習慣の推進に寄与した。 |
| <p>③健やかな身体づくりと基本的な生活習慣の定着推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上の取組アスレティックトレーナーによる体力向上事業による啓発事業及びジャックナイフストレッチの導入により、柔軟性が向上した。 | <p>③健やかな身体づくりと基本的な生活習慣の定着推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を上回るために柔軟性の更なる向上を目指していることにより、年次的に体力向上の傾向にある。 |
| <p>④キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校でのキャリア教育の充実のために「キャリア教育講師人材リスト」の活用等が広まった。長崎のまちの担い手を育てる視点からの長崎の宝発見・発信学習や日吉自然の家での宿泊学習が定着した。 | <p>④キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育講師人材リスト」の活用が75校、長崎の宝発見・発信学習に取組む学校が44校、日吉自然の家での宿泊学習はすべての小学校で実施したことで、キャリア教育の充実に寄与した。 |

評価(問題点とその要因)

| 5年後にめざす姿に対する問題点 | 問題点の要因 |
|---|---|
| <p>①平和教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和教育手引書に基づいた平和教育の浸透が十分ではない。 | <p>①平和教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい平和教育の実践開始からの年数が短いため、まだ十分な浸透が図れていない。 |
| <p>②読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習等での図書館活用や、授業への関わりをさらに充実させる。 ・絵本の引き換え実績は70%台後半で推移している。 | <p>②読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習等での図書館活用や、授業への関わりについて、学校による温度差がある。 ・絵本の引き換えについて、さらなる広報活動等が不十分である。 |
| <p>③健やかな身体づくりと基本的な生活習慣の定着促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上の取組みが一過性のものとなりがちで、継続的な取組みとして定着していない。 | <p>③健やかな身体づくりと基本的な生活習慣の定着促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者任せとなりがちで、学校職員全体として、体力向上に取り組む意識がやや低い。 |
| <p>④キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがキャリア教育を学んだり、体験したりしたことを生かしたりする場が、所属する地域において不足している。 | <p>④キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と地域との関わりの希薄化や学校と地域との連携協力を調整する場が不足している。 |

今後の取組方針

①平和教育の推進【B1-2へ再掲】

・平成28年度から平成29年度にかけて、「平和の思いを自ら発信しようと思う児童生徒の育成」を視野に入れた、新たな平和教育の再編成に取り組んだので、今後関係機関や関係団体と連携を深めながら、研究協力校による授業実践を重ねていく。市立小中学校の全ての教職員に「平和教育手引書」を配付し、3つの柱による新しい平和教育をさらに推進していく。

②読書活動の推進

・現在、読書量を増やす取組みのほか、学校図書館や司書を活用した授業を行っている。さらに司書が積極的に授業に関わり、読書活動の質を高めていくことができるように、図書館司書の研修会や訪問指導を行うとともに学校への積極的な働きかけを行っていく。

・絵本の引換えについて、さらなる広報活動等を行う。

③健やかな身体づくりと基本的な生活習慣の定着推進

・保健体育部会や県主催体力向上事業を活用し、体育時間以外の柔軟性向上ストレッチを実施するとともにストレッチが立派な運動の要素であり、身体づくりの基礎であることの意識改革を行う。

・長崎っ子の約束「あ・は・は運動」と連動した生活習慣改善を促す活動を継続するとともに、「学校給食料理レシピコンクール」に朝食部門を引き続き設定し、おすすめ朝食メニューの提案をするなど食に対する関心を高める。

④キャリア教育の充実

・キャリア教育を学ぶ場、学んだことを発揮する場が不足しているため、これまでの取組みに加えて、小学生による「まちづくりアイデアコンテスト」や「中学生議会」における「未来のまちづくり」の話合いを行うことで、小中学生がまちづくりの主役であるという意識(当事者意識)を育て、グローバルなキャリア教育を推進する。

| No. | 事業名・担当課・事業目的・概要 | 区分 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-----|--|--------------|---|--|
| 2 | <p>(事業名) 平和教育指導費</p> <p>【学校教育課】</p> <p>(事業目的) 原爆被爆都市として、学校教育の中で、被爆体験を継承し、平和の大切さを自ら発信しようとする児童生徒を育てる。</p> <p>(事業概要) 市内全小中学校において、被爆体験講話を実施する。教職員に対し平和教育担当者研修会、平和教育講演会、初任者に対して平和教育研修会を開催する。 全中学校に対し原爆被爆パネル展を実施する。 小学校3校、中学校2校を平和教育実践協力校として指定し、「平和教育手引書」に基づいた新しい平和教育の浸透と、授業実践を通じた検証を行う。</p> | 実施年度 | 継続 | |
| | | 成果指標 | 平和の大切さを自ら発信しようと思う子どもの割合 | |
| | | 目標値 | 93.8 (%、人、円など) | 94.2 (%、人、円など) |
| | | 実績値 | 92.5 (%、人、円など) | 92.1 (%、人、円など) |
| | | 達成率 | 98.6 % | 97.8 % |
| | | 決算(見込)額 | 1,981,721 円 | 7,849,483 円 |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | <p>これまでの平和教育の実践により、児童生徒の心情面については、十分に育むことができたことから、平和の大切さを自ら発信しようと思う子どもの割合を成果指標とした。</p> <p>学校から提出される「学校評価報告書」の当該項目の数値が5年間で直近値から2ポイント増となることをめざす。</p> | |
| | | 取組実績、成果・課題等 | <p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 被爆体験講話を市内109小中学校で実施した。 原爆被爆パネル展を39中学校で実施した。 平和教育担当者研修会、平和教育講演会、初任者に対する研修会を年1回開催した。 平和教育研究協力校に小学校4校、中学校4校を指定し、平和教育手引書の作成に向けた実践を行った。 平和教育再編成部会を組織し、平和の大切さを自ら発信する力を高めるための、平和教育手引書の作成を行った。 <p>(成果・課題等)</p> <p>各小中学校では発信を意識した平和教育が実践されており、「自ら発信しようと思う」という新たな指標に対しても、目標値には達していないが、高い割合となっている。今後は「平和の創造」という新たな視点を取り入れた平和教育を、「平和教育手引書」を活用して実践していく必要がある。</p> | <p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 被爆体験講話を市内108小中学校で実施した。 原爆被爆パネル展を39中学校で実施した。 平和教育担当者研修会、平和教育講演会、初任研平和教育研修会を年1回開催した。 平和教育実践協力校に小学校3校、中学校2校を指定し、新しい平和教育の浸透と、授業実践を通して検証を行った。 平和教育再編成部会を組織し、平和の大切さを自ら発信する力を高めるための、平和教育手引書の配布を行った。 <p>(成果・課題等)</p> <p>各小中学校では発信を意識した平和教育が実践されており、「自ら発信しようと思う」という指標に対しても、目標値には達していないが、高い割合となっている。また「平和の創造」とい新たな視点を取り入れた平和教育の実践が始まり、児童生徒の意識の高まりが見られる。今後も現在の取組みを継続し、市立小中学校へのさらなる浸透を図る必要がある。</p> |

| No. | 事業名・担当課・事業目的・概要 | 区分 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-------------|--|---|---|-----------------|
| 3 | <p>(事業名) 学校図書館司書配置費</p> <p>【学校教育課】</p> <p>(事業目的) ・司書教諭や図書ボランティアと連携し、児童生徒の読書活動の支援や、学校図書館を活用した授業の積極的な推進を図る。 ・団体貸出の積極的な利用等、市立図書館との一層の連携を図る。</p> <p>(事業概要) ・市内小中学校に学校図書館司書を配置する。 ・司書・司書教諭・図書ボランティアの連携による読書活動の校内支援体制強化や授業における学校図書館を活用した指導方法等、学校図書館の機能の向上と活性化を図る。</p> | 実施年度 | 継続 | |
| | | 成果指標 | 読書が好きな小中学生の割合 | |
| | | 目標値 | 74.8 (%、人、円など) | 〈調査なし〉(%、人、円など) |
| | | 実績値 | 74.1 (%、人、円など) | 〈調査なし〉(%、人、円など) |
| | | 達成率 | 99.1 % | % |
| | | 決算(見込)額 | 66,395,639 円 | 66,470,893 円 |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | <p>全国調査であり、市の小中学生の読書に対する意識を分析できると考えるため、全国学力・学習状況調査で「読書が好きだ」と答えた小中学生の割合を成果指標とした。 過去5年間の実績値の平均を上回ることを目標とし、平成32年度に基準値から5ポイント増をめざす。</p> | |
| 取組実績、成果・課題等 | <p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則、小中学校の2校に1人、計43人の学校図書館司書を配置。年間任用を34名、学期任用を9名とした。 ・長期休業中の中学校の学校図書館を開放。 ・司書・司書教諭・図書ボランティアの連携による読書活動の支援や学校図書館の機能の向上と活性化。 ・司書のスキルアップのための研修会を市立図書館と連携して実施。 <p>(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能的で魅力的な図書館環境づくりがなされた。 ・図書館利用者や貸出冊数が増加した。 ・学習活動への積極的な支援(授業への関わりなど)が行われた。 ・市立図書館との連携により、研修会を実施し、各司書のスキルアップを図った。 | <p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査における「読書が好きな小中学生の割合」の結果を成果指標に掲げていたが、平成30年度はこの調査項目がなくなった。令和元年度からは再度調査が行われることとなっている。 ・原則、小中学校の2校に1人、計43人の学校図書館司書を配置。年間任用を34名、学期任用を9名とした。 ・長期休業中の中学校の学校図書館を開放。 ・司書・司書教諭・図書ボランティアの連携による読書活動の支援や学校図書館の機能の向上と活性化。 ・司書のスキルアップのための研修会を市立図書館と連携して実施。 <p>(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能的で魅力的な図書館環境づくりがなされた。 ・図書館利用者や貸出冊数がさらに増加した。 ・学習活動への積極的な支援(授業への関わりなど)が多く行われた。 ・市立図書館との連携により、研修会を実施し、各司書のスキルアップを図った。 ・新聞を図書館に置き活用を図った。 ・全般的な取組みの質は高まったが、学校による差はみられる。研修会やブロック研修会等を活用し、さらなるスキルアップを目指す。 | | |

| No. | 事業名・担当課・事業目的・概要 | 区分 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-----|--|--------------|--|--|
| 3 | <p>(事業名) はじめまして絵本事業費</p> <p>【市立図書館】</p> <p>(事業目的) 絵本を親子で読んでもらうことにより、子どもの豊かな感性や心を育み、生涯にわたる読書習慣につなげる。また、図書室で絵本への引き換えを行うことにより、公民館等の利用促進につなげる。</p> <p>(事業概要) 4か月児健診会場において、司書が親子での読書の大切さの意義を説明のうえ、絵本引換券を配布するとともに、引き換え場所である市内57箇所の図書館・公民館図書室等で実施している「読み聞かせ」や各種講座等への参加を促し、図書館・公民館等の利用による地域交流等につなげる。</p> | 実施年度 | 継続 | |
| | | 成果指標 | 絵本への引換率 | |
| | | 目標値 | 80.0 (%、人、円など) | 80,0 (%、人、円など) |
| | | 実績値 | 78.4 (%、人、円など) | 77.4 (%、人、円など) |
| | | 達成率 | 98.0 % | 96.8 % |
| | | 決算(見込)額 | 1,964,196 円 | 2,118,550 円 |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | <p>絵本の引換えのために公民館等へ足を運んでもらうことが、公民館等の利用促進の第一歩であるため、絵本への引換率を成果指標とした。</p> <p>前年度は、目標値を達成できなかったため、同じ目標値とした。</p> | <p>絵本への引換えのために公民館等へ足を運んでもらうことが、公民館等の利用促進の第一歩であるため、絵本への引換率を成果指標とした。</p> <p>これまでの実績は70%台後半で推移しており、それを上回る80%を目標値とした。</p> |
| | | 取組実績、成果・課題等 | <p>(取組実績)</p> <p>①4か月児健診会場にて絵本引換券を配布し、図書館や公民館等図書室にて、司書が選んだ3冊の絵本から希望する1冊をプレゼントした。</p> <p>②絵本への引換時に赤ちゃん用の図書貸出券を作ってもらい、子ども用図書貸出券袋に入れて手渡した。</p> <p>③7か月児健診の案内文書にチラシを同封し、引換率向上を図った。</p> <p>④平成29年度末までに絵本引換券の引換期限を迎える対象者3,056人のうち、2,397人が引換えを行った。</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>絵本への引換率は、前年度を下回ったものの目標をほぼ達成できた。</p> <p>また、利用者アンケートの結果から、司書が選ぶ本の見直しを行った。引き続き、引換をしていない人へのさらなる広報活動等を行い、引換率向上を目指していく。</p> | <p>(取組実績)</p> <p>①4か月児健診会場にて絵本引換券を配布し、図書館や公民館等図書室にて、司書が選んだ3冊の絵本から希望する1冊をプレゼントした。</p> <p>②絵本への引換時に赤ちゃん用の図書貸出券を作ってもらい、子ども用図書貸出券袋に入れて手渡した。</p> <p>③7か月児健診の案内文書にチラシを同封し、引換率向上を図った。</p> <p>④平成30年度末までに絵本引換券の引換期限を迎える対象者3,048人のうち、2,358人が引換えを行った。</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>絵本への引換率は、前年度を下回ったものの目標をほぼ達成できた。</p> <p>引き続き、引換をしていない人へのさらなる広報活動等を行い、引換率向上を目指していく。</p> |

| No. | 事業名・担当課・事業目的・概要 | 区分 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-----|---|--------------|--|---|
| 1 | <p>(事業名) 学校図書館支援事業</p> <p>【市立図書館】</p> <p>(事業目的) 市内の小・中学校図書館に配置されている学校司書と連携し、授業や学習支援に市立図書館の資料を活用する。</p> <p>(事業概要) 学校図書館の支援担当司書による相談窓口を設置し、学校図書館司書配置校への訪問や相談、団体貸出手続きの援助等を行うことで、学校図書館の運営を支援する。</p> | 実施年度 | 継続 | |
| | | 成果指標 | 学校訪問回数 | |
| | | 目標値 | 10 回 | 12 回 |
| | | 実績値 | 10 回 | 9 回 |
| | | 達成率 | 100.0 % | 75.0 % |
| | | 決算(見込)額 | 0 円 | 0 円 |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | <p>授業や学習支援において市立図書館を活用するには、学校図書館司書との連携が必要になることから、学校訪問回数を成果指標とし、平成29年度の目標値を初任者の司書が配置された学校数の5と、課題を抱えている学校数への対応と併せ10とした。</p> | <p>授業や学習支援において市立図書館を活用するには、学校図書館司書との連携が必要になることから、学校訪問回数を成果指標とし、今年度の目標値を昨年度の実績を踏まえ、初任者の司書が配置された学校6校へ複数回訪問することとし、12回とした。</p> |
| | | 取組実績、成果・課題等 | <p>(取組実績) 学校訪問回数 10回 団体貸出援助 62件</p> <p>(成果・課題等) 初任者の学校図書館司書が配置された5校への学校訪問を行い、助言を行った。さらに、課題をかかえている学校へ訪問し、課題解決に向けた助言等を行った。また、各学校の団体貸出手続きの援助を行うことで、学校図書館との連携を図った。</p> | <p>(取組実績) 学校訪問回数 9回 団体貸出援助 69件</p> <p>(成果・課題等) 初任者の学校図書館司書が配置された6校への学校訪問を行い、助言を行った。さらに、課題をかかえている学校へ訪問し、課題解決に向けた助言等を行った。今年度は、課題を抱える学校が少なかったことから、訪問回数が目標値に達していない。また、各学校の団体貸出手続きの援助を行うことで、学校図書館との連携を図った。</p> |

| No. | 事業名・担当課・事業目的・概要 | 区分 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-------------|---|--|---|-----------|
| 3 | <p>(事業名) わくわくはろー！イングリッシュ推進事業 【幼児課】</p> <p>(事業目的) 外国人とのコミュニケーションを、就学前児童が自ら進んで取ることができるようになるため、外国人講師を市内の保育所等に派遣し、英語の歌やゲーム等の活動を通じた交流の機会を提供するモデル事業を実施する。</p> <p>(事業概要) 【対象施設】 4か所 市立保育所1か所・市立認定こども園1か所 私立保育所1か所・私立認定こども園1か所 【対象児童】 3歳以上の在園児(主に5歳児、1回あたり標準30人程度) 【実施場所】 各対象施設 【実施回数】 年3回 【実施時間】 30～40分程度(1回あたり) 【講師】 外部委託(英語教育室等を運営する事業者の中から選定)</p> | 実施年度 | 継続 | |
| | | 成果指標 | 本事業へ参加した対象児童が、外国人に慣れた割合 | |
| | | 目標値 | 100.0 % | 100.0 % |
| | | 実績値 | 94.4 % | 94.6 % |
| | | 達成率 | 94.4 % | 94.6 % |
| | | 決算(見込)額 | 97,200 円 | 162,000 円 |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | 施設を通じて参加児童の反応を集計し、対象児童が外国人に慣れた割合を成果指標とした。 (質問項目：交流が楽しかったか、講師にまた会いたいと思ったか等) 参加児童全員が外国人に慣れることを目標とし、目標値は100%としている。 | |
| 取組実績、成果・課題等 | <p>(取組実績) 外国人講師を4か所の施設(市立保育所・市立認定こども園・私立保育所・私立認定こども園各1か所)に派遣し、年3回ずつ、英語の歌やゲーム等の活動を通じた交流の機会を提供するモデル事業を実施した。</p> <p>(成果・課題等) 外国人講師と児童が直接触れ合い、コミュニケーションを取ることによって、外国人に慣れることができた。 今後、本モデル事業を参考に、各施設が主体となって取り組めるような支援策を検討するため、回数や時間・カリキュラム及び講師の人材確保の方法等の検証を行う必要がある。</p> | <p>(取組実績) 外国人講師を4か所の施設(市立保育所・市立認定こども園・私立保育所・私立認定こども園各1か所)に派遣し、年3回ずつ、英語の歌やゲーム等の活動を通じた交流の機会を提供するモデル事業を実施した。</p> <p>(成果・課題等) 外国人講師と児童が英語の歌やゲームなどを通してコミュニケーションを取ることによって、一定外国人に慣れることができたかと判断できるものの、本事業を拡大して実施する場合にはより効果的な実施回数やカリキュラムの検討、実施可能な業者の確保等について課題がある。</p> | | |

令和元年度 個別施策評価シート

| | | | |
|------------------|-------------------------------|------------------------|------|
| 個別施策 | G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実を図ります | | |
| 施策の目的 (対象と意図) | 対 象 | 意 図 | |
| | 子どもが | 社会全体の連携によって、健やかに育っている。 | |
| 個別施策主管課名 | 学校教育課 | 所属長名 | 大塚 潤 |

平成30年度 of 取組概要

- ①地域の大人の連携の推進
 ・地域における青少年健全育成活動の振興、非行防止・事故防止活動に取り組む青少年育成協議会が実施する日常活動事業や体験活動事業に対し支援を行い、団体の活動の充実を推進することで、子どもたちの健全育成や非行・事故防止に取り組んだ。
- ②学校公開の推進
 ・各小中学校に対して、土曜日に授業参観日を設定する「土曜授業」に積極的に取り組むよう啓発を行った。
- ③学習支援の充実【G1-1へ再掲】
 ・授業中の支援や「長崎寺子屋事業(放課後等の学習支援)」を推進するため、希望する全ての小学校へ、教員志望の大学生や教職経験者等を学校サポーターとして派遣した。
- ④家庭教育の推進
 ・家庭教育の充実を図るため、保護者の関心が高いテーマについて、少人数のグループに分かれてワークショップを行う参加体験型のファミリープログラムを市立小中学校のPTAなどの研修会で実施した。
 ・インターネット上の有害情報や危険性から子どもを守るために、長崎市PTA連合会と連携し作成した、「緊急メッセージ」のチラシを市立小中学校を通じて各家庭に配布した。加えて、長崎市PTA連合会と「メディア利用」に関する研修会を実施した。
- ⑤幼保小、小中の連携推進【F4-3へ再掲】
 ・市内全小学校とその小学校区の幼稚園、保育所、認定こども園による情報交換及び長崎市独自で作成した幼保小連携の手引書を活用し幼保小連携を推進した。
 ・子どもたちの人間形成の土台作りのために策定した「長崎っ子の約束 あ・は・は運動」について、これまでに作成したリーフレットやステッカー、ポスター等を活用し、保護者や地域、子どもたちへの周知徹底を図るとともに「あ・は・は運動」ステッカーを新1年生用に作成し、入学式で配布した。また、5歳児保護者を対象とした幼保小連携に関するリーフレットに「あ・は・は運動」について記載し、秋の就学時健診の際に配布した。

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

| 指 標 名 | 基準値 (時期) | 区 分 | H28 | H29 | H30 | R元 | R2 |
|--|-----------------|-------|--------|--------|--------|------|-------|
| 学校の授業に地域住民が参加した学校の割合 | 67.3% (26年度) | ↑ 目標値 | 80.0 | 85.0 | 90.0 | 95.0 | 100.0 |
| | | 実績値 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | | |
| | | 達成率 | 125.0% | 117.6% | 111.1% | | |
| スマートフォン等の通信端末機の使用について親子でルールを決めている小中学生の割合 | 59.3% (27年度) | ↑ 目標値 | 67.0 | 74.0 | 81.0 | 88.0 | 95.0 |
| | | 実績値 | 60.4 | 61.8 | 64.1 | | |
| | | 達成率 | 90.1% | 83.5% | 79.1% | | |

評価(成果と効果)

| 取組みによる成果 | 5年後にめざす姿に対する効果 |
|--|---|
| ①地域の大人の連携の推進 ・54地域の青少年育成協議会に対し、地域における活動への支援を行った。 | ①地域の大人の連携の推進 ・青少年健全育成活動の振興、非行防止・事故防止活動の充実が図られた。 (活動回数 H29:1,120回 → H30:1,122回) |
| ②学校公開の推進 ・全ての小中学校において、6月に実施する「長崎っ子を見つめる教育週間」の一環として、「土曜授業」を実施し、多くの保護者や地域の方が参観した。 | ②学校公開の推進 ・保護者、地域の多くの方に教育活動を参観してもらうことにより、子供たちの様子や学校の方針を発信、共有することができた。また、土曜授業を実施することで、普段参加できない保護者や地域の方も参観できた。 |
| ③学習支援の充実 ・長崎市内のすべての小学校で、「長崎寺子屋事業(放課後等の学習支援)」が行われ、学習支援の充実が図られている。 | ③学習支援の充実 ・学習支援の充実が図られることで、児童の学習意欲が喚起され、学力の向上が図られた。 (小6全国学力調査の平均との差 H26:-1.75ポイント → H30:-1.0ポイント) |
| ④家庭教育の推進 ・メディアをテーマにしたファミリープログラムを27回開催し、1,938人が参加した。 ・メディア研修会を4回開催し、116人が参加した。 ・メディア使用のルールづくりの実績値は、保護者は82.5%で前年度比1.1%増加、児童生徒は64.1%で前年度比2.3%の増加となった。 | ④家庭教育の推進 メディアをテーマにしたファミリープログラム、メディア研修会を継続的に開催することで、メディア使用のルールづくりの実績値が、保護者、児童生徒ともに100%につか付き、それを遵守する家庭が増加傾向にある。 (損受する家庭の割合:約88%) |
| ⑤幼保小、小中の連携推進 ・幼保小の職員同士が顔見知りになることで、よりスムーズで細やかな情報交換ができ、幼稚園や保育所から小学校へ就学する際の適応に不安を抱える「小1プロブレム」の解消につながった。 | ⑤幼保小、小中の連携推進 ・幼保小連携を継続的に推進することで、「小1プロブレム」が解消され、学力向上につながり、幼保小を核とした地域コミュニティが形成された。 |

評価(問題点とその要因)

| 5年後にめざす姿に対する問題点 | 問題点の要因 |
|---|---|
| ①地域の大人の連携の推進 ・青少年育成協議会において、事業活動が縮小している。 | ①地域の大人の連携の推進 ・事業活動する会員の固定化や減少のため。 |
| ③学習支援の充実 ・授業中の支援や「長崎寺子屋事業(放課後等の学習支援)」は定着が図られてきたが、派遣している大学生等のサポーターを子どもたちの実態に合うように効率よく活用できていない。 | ③学習支援の充実 ・教員が学習支援のサポーター等の活用方法を十分に理解できておらず、効果が実感できていない。 |
| ④家庭教育の推進 メディア使用のルールについて、保護者と児童生徒が話し合って互いに納得したルールであるという認識の違いが約18%ある。 | ④家庭教育の推進 メディア使用のルールについて、保護者が主体的に決めている状況があると推察され、児童生徒が納得して決めたルールになっていないと考える。 |
| ⑤幼保小、小中の連携推進 ・日程調整の難しさと移動時間を含む時間の確保の難しさ、また、一部の職員の負担が増えることが問題である。 | ⑤幼保小、小中の連携推進 ・連携の多くは一つの小学校に対して複数の園と連携をしているので、日程等の調整が難しい。 ・小学校においては連携を行う学年が1年生や5・6年生と限定されることが多いため、一部の職員が負担に感じている。 |

今後の取組方針

①地域の大人の連携の推進

・青少年育成協議会への支援を引き続き行ってだけでなく、各地域の青少年育成協議会に対し、日常活動事業に加え、体験活動事業の積極的な実施について働きかけを行う。

②学校公開の推進

・「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における学校公開の取組みは既に浸透しているので、今後もPTAや社会体育関係団体に対して協力要請を行いながら継続する。

③学習支援の充実【G1-3へ再掲】

・「長崎寺子屋事業」の実施状況を確認するとともに、学校サポーターを活用して充実した取組を行っている方法を広めていく。

④家庭教育の推進

・各家庭でのテレビやゲーム使用のルールが、その後のスマートフォン等の使用ルールに大きく影響してきていることから、「テレビやゲームに関して保護者と児童生徒がお互によく話し合っ規則を決め、それを遵守する・させる」などの取組みが不可欠である。今後とも、「メディアとの上手なつきあい方」をテーマにしたファミリープログラムやPTAメディア研修会を実施してメディア利用に関する現状と課題等について新しい事例を交えながら講話を実施していく。また、親のスマホ依存が子どもに影響があるという問題も提起されているため、保護者自身のそれへの制限も呼びかけていきたい。加えて、長崎市・長崎市教育委員会・長崎市PTA連合会からの緊急メッセージ「メディア利用の共通ルール」を基に、ルールづくりの現状等を家庭や学校に再周知し、チラシによる啓発も継続してPTAと連携しながらメディアに関するでのルールづくりとその遵守について、啓発活動を推進していく。

⑤幼保小、小中の連携推進【F4-3へ再掲】

・中学校区を単位とした細かなブロックごとの幼保小連携の取組みが進んできていることから、各ブロックの取組や「あ・は・は運動」についても、取組みの趣旨を再確認して、その継続・徹底を図っていく。

・今後、あまり構えることなく気軽に連携を進めていけるよう、時間の調整だけでなく、管理職が活動を参観したり、長期休業中に職員同士の交流を深めるなどの工夫を広げていく。

| No. | 事業名・担当課・事業目的・概要 | 区分 | 平成29年度 | 平成30年度 | |
|-----|---|--------------|--|---|--|
| 3 | <p>(事業名) 家庭教育充実費</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子どもが社会で健やかに育っていくために必要な力を身に付けていく上で重要な役割を果たしている。しかしながら近年では、核家族化や共働きの家庭が増加し、家庭における親と子どもの関わりが希薄になってきている状況がある。そこで、家庭教育の充実を社会全体で取り組むべき課題ととらえ、PTA会員を対象とした各種研修会、子どもを持つ親同士が交流を図りながら子育てに必要な知識や技能を主体的に学べる参加型の学習プログラムであるファミリープログラムなどを行うなかで、家庭と学校の連携を深めながら、家庭教育力の向上を図る。</p> <p>(事業概要) ・PTA役員研修会など専門部ごとの研修会を実施 ・子どもをメディアトラブルから守るためにメディア研修会を実施 ・市PTA連合会(教養委員会及び母親部会)への研究を委託し家庭教育講演会を実施 ・市P連正副会長会、常任委員会、単P会長会、母親部会への指導助言を実施 ・PTA活動の手引きの作成及び配布 ・単位PTAの活動報告による情報交換と家庭教育の啓発するための講演会を研究大会として実施 ・ファミリープログラム(少人数グループによるワークショップ学習プログラム)による親育て講座の実施</p> | 実施年度 | 継続 | | |
| | | 成果指標 | 参加延べ人数 | | |
| | | 目標値 | 12,100 人 | 12,100 人 | |
| | | 実績値 | 10,657 人 | 10,545 人 | |
| | | 達成率 | 88.1 % | 87.1 % | |
| | | 決算(見込)額 | 1,014,312 円 | 1,000,833 円 | |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | <p>家庭教育に関する各種研修会や講演会、ファミリープログラム等を通じて、保護者の家庭教育力向上を図るため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、子どもの数は減少しているが、核家族化や共働き家庭の増加で、子育てに不安を感じている保護者への支援の必要性は引き続き高いと考えられるため、昨年度同様に平成25年度の実績値の20%増に設定した。</p> | | |
| | | 取組実績、成果・課題等 | <p>(取組実績)</p> <p>1 PTA役員研修会 合計10回 705人 ①学級委員 2回 163人 ②広報委員 2回 176人 ③校外補導委員 2回 134人 ④文化教養委員 2回 101人 ⑤保健体育委員 2回 131人</p> <p>2 メディア研修会 4回 120人</p> <p>3 市PTA研究大会 開催日:平成30年 2月10日(土) 会場:ブリックホール 参加者数:1,800人</p> <p>4 夏季ブロック研修会 4回 341人</p> <p>5 単位PTA会長会 3回 361人</p> <p>6 母親部会 合計8回 748人 ①リーダー研修会 1回 215人 ②ブロック研修会 5回 229人 ③講演会 1回 150人 ④反省会 1回 154人</p> <p>7 ファミリープログラム合計127回6,582人 ①小中学校PTA 99回 4,971人 ②幼稚園、保育園保護者等 3回 45人 ③教職員対象 6回 144人 ④その他の講座 19回 1,422人</p> | <p>(取組実績)</p> <p>1 PTA役員研修会 合計10回 721人 ①学級委員 2回 164人 ②広報委員 2回 185人 ③校外補導委員 2回 129人 ④文化教養委員 2回 103人 ⑤保健体育委員 2回 140人</p> <p>2 メディア研修会 4回 116人</p> <p>3 市PTA研究大会 開催日:平成31年1月27日(日) 会場:ブリックホール 参加者数:1,900人</p> <p>4 夏季ブロック研修会 4回 390人</p> <p>5 単位PTA会長会 3回 291人</p> <p>6 母親部会 合計8回 680人 ①リーダー研修会 1回 190人 ②ブロック研修会 5回 203人 ③講演会 1回 153人 ④反省会 1回 134人</p> <p>7 ファミリープログラム合計124回6,447人 ①小中学校PTA 89回 5,015人 ②幼稚園、保育園保護者等 2回 48人 ③教職員対象 3回 170人 ④その他の講座 30回 1,214人</p> | |
| | | (成果・課題等) | <p>目標値は達成していないが、実績値は10,657人に増加し、特にファミリープログラムの参加者からは、子育てのヒントを学ぶことができた、保護者が持っている不安を出し合い、その解消がされたなど、肯定的な感想が多くあり、家庭での教育の重要性が伝わり成果があった。</p> <p>今後も引き続き、さまざまな機会ファミリープログラムの手法を用いての講座を行い、参画意識を高め、家庭教育力の向上を図っていききたい。また、さまざまな悩み・不安などの形態に対応できるファシリテーターの育成もしていきたい。</p> | | |
| | | (成果・課題等) | <p>実績値は112人微減した。しかし、ファミリープログラムの参加者からは、子育ての悩みの共有と子育てのヒントを学ぶことができた、メディア利用について、危険性を学ぶことができたなど、肯定的な感想が多く寄せられた。</p> <p>今後とも、ファミリープログラムの手法を用いた講座等を行い、参加体験型受講により、主体的に課題の解決ができるように意識を高めさせ、家庭教育力の向上につなげていきたい。また、さまざまな悩み・不安などの形態に対応できるファシリテーターの育成にも力を入れていきたい。</p> | | |

| No. | 事業名・担当課・事業目的・概要 | 区分 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-----|---|--------------|---|---|
| 3 | <p>(事業名) 青少年健全育成活動事業費補助金</p> <p>【こどもみらい課】</p> <p>(事業目的) 地域における青少年健全育成活動の振興、非行防止・事故防止活動の活発化を図る。</p> <p>(事業概要) 青少年育成協議会に対して、日常活動費・体験活動費を補助する。</p> | 実施年度 | 継続 | |
| | | 成果指標 | 活動件数 | |
| | | 目標値 | 1,300 件 | 1,300 件 |
| | | 実績値 | 1,120 件 | 1,122 件 |
| | | 達成率 | 86.2 % | 86.3 % |
| | | 決算(見込)額 | 10,858,731 円 | 10,658,576 円 |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | <p>青少年の健全育成活動の充実のため、各団体の活動件数を成果指標とした。</p> <p>毎年1,200件前後で推移しており、更なる活動の充実をめざして1,300件を目標値とした。</p> | <p>青少年の健全育成活動の充実のため、各団体の活動件数を成果指標とした。</p> <p>毎年1,200件前後で推移しており、更なる活動の充実をめざして1,300件を目標値とした。</p> |
| | | 取組実績、成果・課題等 | <p>(取組実績)</p> <p>【日常活動費】 23小学校区：1,356,594円 31中学校区：3,525,137円</p> <p>【体験活動費】 20小学校区：2,477,000円 29中学校区：3,500,000円</p> <p>(成果・課題等) 地域における活動への支援を行うことで、青少年健全育成活動の振興、非行防止・事故防止活動の充実が図られているが、活動する会員の固定化や減少により、事業活動の縮小などが起こっている。</p> | <p>(取組実績)</p> <p>【日常活動費】 23小学校区：1,310,000円 31中学校区：3,608,576円</p> <p>【体験活動費】 18小学校区：2,188,000円 29中学校区：3,552,000円</p> <p>(成果・課題等) 地域における活動への支援を行うことで、青少年健全育成活動の振興、非行防止・事故防止活動の充実が図られているが、活動する会員の固定化や減少により、事業活動の縮小などが起こっている。</p> |

令和元年度 個別施策評価シート

| | | | | | |
|------------------|------------------------------|-------------------|-------|--|--|
| 個別施策 | G1-4 子どもが安全・安心に学べる教育環境を整備します | | | | |
| 施策の目的 (対象と意図) | 対 象 | 意 象 図 | | | |
| | 子どもが | 安全で安心な学校生活を送っている。 | | | |
| 個別施策主管課名 | 施設課 | 所属長名 | 西原 政彦 | | |

平成30年度 of 取組概要

①教育環境整備の推進

- ・伊良林小学校:平成29年度に引き続き給食室移設工事及び南側校舎等の改築工事を行い、北側校舎等の解体及び新校舎の改築工事に着手した。
- ・仁田佐古小学校:運動場整備実施設計及び平成29年度に引き続き校舎建設特殊基礎工事を行い、校舎等建設工事に着手した。
- ・外海中学校:運動場等整備工事及び平成29年度に引き続き新校舎等の建設工事を行った。
- ・小島小学校:校舎等の改築に伴う取付道路整備のための用地買収、補償契約及び取付道路(仮橋)に係る詳細設計を行った。
- ・外海黒崎小学校:既存プールの解体を行い、新プール建設工事に着手した。
- ・西浦上小学校:建て替えに向けた耐力度調査、土質調査及び登記測量を行った。
- ・市立小中学校:普通教室、音楽室や理科室などの特別教室への空調設備の設置工事に着手した。
- ・市立小中学校:現行の建築基準法に不適合となるブロック塀等について、フェンスなどへの改修工事に着手した。

②学校における子どもの安全確保の充実

- ・通学路交通安全プログラムの計画に従って、小学校24校の点検及び5校の緊急点検を実施した。

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

| 指 標 名 | 基準値 (時期) | 区 分 | H28 | H29 | H30 | R元 | R2 |
|-----------------------------|-----------------|-------|--------|--------|-------|------|------|
| 学校は児童生徒の安全に気を配っていると思う保護者の割合 | 90.3% (26年度) | ↑ 目標値 | 91.8 | 92.6 | 93.4 | 94.2 | 95.0 |
| | | ↑ 実績値 | 91.6 | 91.9 | 92.5 | | |
| | | ↑ 達成率 | 99.8% | 99.2% | 99.0% | | |
| 小・中学校トイレの洋式化率 | 39.0% 29年度 | ↑ 目標値 | 31.4 | 39.3 | 44.6 | 44.6 | 44.6 |
| | | ↑ 実績値 | 31.4 | 40.3 | 44.0 | | |
| | | ↑ 達成率 | 100.0% | 102.5% | 98.7% | | |

評価(成果と効果)

| 取組みによる成果 | 5年後にめざす姿に対する効果 |
|---|--|
| <p>①教育環境整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊良林小学校:南側校舎等の改築工事を平成30年12月に完了した。 ・仁田佐古小学校:校舎建設特殊基礎工事を平成30年9月に完了した。 ・外海中学校:屋内運動場建設工事を平成30年12月、校舎建設工事を平成31年1月、運動場等整備工事を平成31年3月に完了した。 ・小島小学校:取付道路整備に係る用地買収及び補償契約について、対象6筆のうち残り2筆の買収を行った。 ・外海黒崎小学校:既存プールの解体を完了した。 ・西浦上小学校:耐力度調査、土質調査及び登記測量を行った。 ・市立小中学校:普通教室、音楽室や理科室などの特別教室への空調設備の設置工事に着手した。 ・市立小中学校:現行の建設基準法に不適合となるブロック塀等について、フェンスなどへの改修工事に着手した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の改善を図るにあたり、各学校において施設整備等を実施したことで計画的な進捗を図ることができた。 |
| <p>②学校における子どもの安全確保の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・232件の改善要求が上がり、137件については改善が終了している。残りについては、改善に向けて検討中である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・通学路の危険箇所の点検及び整備が進み、子どもたちがより安全に登下校できるようになった。 |

評価(問題点とその要因)

| 5年後にめざす姿に対する問題点 | 問題点の要因 |
|---|---|
| <p>①教育環境整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後のベビーブームに建設された校舎など、学校施設の老朽化が進んでおり、引き続き安全安心な教育環境の整備が求められる。また、小規模校化する小中学校が今後増加する見込みである一方、一部の小中学校においては、児童生徒数が増加し、教室不足等の施設の狭小化が懸念される。 | <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の進行及び一部の地域においては、団地開発やマンション建設などに伴い、児童生徒数が増加しているため。 |
| <p>②学校における子どもの安全確保の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市道については概ね対応できたが、信号機の設置など警察が対応するものについては、改善が難しく、子どもへの安全指導で対応している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・信号や横断歩道の設置については警察が管轄しており、道路の状況及び通行量等の条件が厳しく、設置に至らないケースが多いため。 |

今後の取組方針

| |
|--|
| <p>①教育環境整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も少子化の進行が見込まれる中、学校での教育活動の効果を高め、次代を担う子どもたちの教育効果を高めるために、学校規模の適正化と適正配置を図る。 ・小中学校の適正配置計画を見据えながら、施設整備の計画的な進捗を図る。 ・バリアフリー対策として、新增改築はもとより、既存校舎においても可能な限りエレベーター整備を進める。 ・児童生徒が、安全安心に学べる教育環境にするために、老朽化した学校施設の改築・改修等を計画的に推進するとともに、トイレの洋式化を推進する。 ・学校ごとの施設整備計画の策定に向け、建物の健全性を測る判断指標とするため、耐力度調査を実施する。 ・令和元年度で空調設備の設置及びブロック塀の改修を完了する。 |
| <p>②学校における子どもの安全確保の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「長崎市通学路交通安全プログラム」に基づいた通学路点検を12校で実施する。 |

| No. | 事業名・担当課・事業目的・概要 | 区分 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-----|---|--------------|--|---|
| 1 | <p>(事業名) 【単独】小学校整備事業費(仁田佐古小学校舎等建設) 【施設課】</p> <p>(事業目的) 佐古小学校及び仁田小学校においては小規模化しており、また学校間の距離が約300mと近接していることに加え、両校とも校舎が老朽化していることから、2校の統廃合を行い、佐古小学校跡地に新校舎の建設を行い、教育環境の改善を図る。</p> <p>(事業概要) 【事業期間】平成27年度～令和2年度 【総事業量】 ・基本・実施設計 ・耐力度調査 ・土質調査 ・旧佐古小既存校舎等解体 ・新設校建設 ・運動場整備 ・旧仁田小既存校舎等解体 【総事業費】2,721,297千円 【事業費累計】969,857千円</p> | 実施年度 | 平成27年度～令和2年度 | |
| | | 成果指標 | 事業進捗率(事業費ベース) | |
| | | 目標値 | 10.8 % | 39.0 % |
| | | 総事業進捗率 | 10.8 % | 35.6 % |
| | | 達成率 | 100.0 % | 91.3 % |
| | | 決算(見込)額 | 194,954,708 円 | 689,657,333 円 |
| | | 当該年度執行率 | 99.3 % | 88.3 % |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | <p>事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率として、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。</p> | |
| | | 取組実績、成果・課題等 | <p>(取組実績) 平成28年度に引き続き、旧佐古小学校の解体工事を施工し、完了し、校舎等の基本実施設計を行った。</p> <p>(成果・課題等) 事業期間内では、解体工事は予定どおり進捗したが、基本実施設計業務委託が工期延長となり、平成30年度に繰り越した。 (繰越額5,947千円) また、継続費設定により、3,031,852円を平成30年度へ繰り越した。</p> | <p>(取組実績) 平成30年度は、校舎等建設工事に着手し、また、運動場整備実施設計を行った。</p> <p>(成果・課題等) 事業期間内では、校舎等建設工事は予定どおり進捗した。 また、継続費設定により、91,219,039円を平成31年度へ通次繰越した。</p> |

| No. | 事業名・担当課・事業目的・概要 | 区分 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-----|--|--------------|---|--|
| 2 | <p>(事業名) 【補助】小学校整備事業費(伊良林小校舎等改築) 【施設課】</p> <p>(事業目的) 校舎の老朽化が進んでいるとともに、一部の校舎は耐震補強工事が実施されていないため耐震力不足であることから、校舎や体育館など施設全体の配置を考慮した再整備を図り、教育環境の向上を図る。</p> <p>(事業概要) 【事業期間】平成27年度～令和2年度 【総事業量】 ・基本設計 ・耐力度調査 ・土質調査 ・実施設計 ・屋外便所・体育倉庫等撤去、解体、移設工事 ・仮設校舎賃貸借 ・既存校舎等解体 ・既存給食室移設 ・新校舎等建設 ・運動場整備 【総事業費】2,806,551千円 【事業費累計】1,763,261千円</p> | 実施年度 | 平成27年度～令和2年度 | |
| | | 成果指標 | 事業進捗率(事業費ベース) | |
| | | 目標値 | 27.4 % | 91.2 % |
| | | 総事業進捗率 | 21.2 % | 62.8 % |
| | | 達成率 | 77.4 % | 68.9 % |
| | | 決算(見込)額 | 483,129,250 円 | 1,187,886,728 円 |
| | | 当該年度執行率 | 32.9 % | 59.9 % |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | 事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率として、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。 | |
| | | 取組実績、成果・課題等 | <p>(取組実績) 平成29年度は、既存校舎等解体、給食室移設を行い南側校舎等の建設に着手した。また、前年に引き続き仮設校舎の賃貸借を行うとともに、敷地内の登記測量業務を行った。</p> <p>(成果・課題等) 事業期間内で、給食室移設工事及び登記測量業務委託が工期延長となった。それ以外は予定通り進捗した。 継続費設定により、987,070,663円を平成30年度に逐次繰越した。</p> | <p>(取組実績) 平成30年度は、給食室の移設及び南側校舎等の建設を行った。また、前年に引き続き仮設校舎の賃貸借を行うとともに、屋内運動場等の解体及び北側校舎の建設に着手した。</p> <p>(成果・課題等) 事業期間内では、予定通り進捗した。 継続費設定により、796,590,415円を平成31年度に逐次繰越した。</p> |

| No. | 事業名・担当課・事業目的・概要 | 区分 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-------------|---|---|---|--------------|
| 3 | <p>(事業名) 【単独】小学校整備事業費(外海黒崎プール改築) 【施設課】</p> <p>(事業目的) 外海黒崎小学校のプール施設は、老朽化が顕著であるため、プールを改築し、教育環境の改善を図る。なお、改築にあたっては、外海中学校と併用できる整備を行う。</p> <p>(事業概要) 【事業期間】平成29年度～令和2年度 【総事業量】 ・実施設計 ・土質調査 ・測量調査 ・既存プール等解体 ・新プール等建設</p> <p>【総事業費】170,725千円 【事業費累計】68,889千円</p> | 実施年度 | 平成29年度～令和2年度 | |
| | | 成果指標 | 事業進捗率(事業費ベース) | |
| | | 目標値 | 5.5 % | 47.3 % |
| | | 総事業進捗率 | 4.8 % | 40.4 % |
| | | 達成率 | 87.3 % | 85.4 % |
| | | 決算(見込)額 | 8,425,437 円 | 60,464,080 円 |
| | | 当該年度執行率 | 63.3 % | 83.6 % |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | 事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率として、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。 | |
| 取組実績、成果・課題等 | (取組実績) 平成29年度は、土質調査、測量調査、実施設計を行った。 | (取組実績) 平成30年度は、既存プールを解体し、新プール建設工事に着手した。 | | |
| | (成果・課題等) 事業期間内では、予定どおり進捗した。 | (成果・課題等) 事業期間内では、予定どおり進捗した。 | | |
| 4 | <p>(事業名) 【単独】小学校整備事業費(小島小取付道路)</p> <p>【施設課】</p> <p>(事業目的) 小島小学校は、校舎の老朽化が進んでいることから改築を行うこととし、教育環境の改善を図る。</p> <p>(事業概要) 【事業期間】平成28年度～令和11年度 【総事業量】 ・取付道路用地買収に係る経費 ・隣接地用地買収に係る経費 ・取付道路(仮橋)整備 ・仮設校舎賃貸借 ・既存校舎等解体 ・新校舎等建設 ・運動場整備 ・取付道路(本橋)整備</p> <p>【総事業費】4,275,168千円 【事業費累計】132,168千円</p> | 実施年度 | 平成28年度～令和11年度 | |
| | | 成果指標 | 事業進捗率(事業費ベース) | |
| | | 目標値 | 3.0 % | 3.4 % |
| | | 総事業進捗率 | 1.7 % | 3.1 % |
| | | 達成率 | 56.7 % | 91.2 % |
| | | 決算(見込)額 | 64,721,643 円 | 61,547,377 円 |
| | | 当該年度執行率 | 52.5 % | 77.4 % |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | 事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率として、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。 | |
| 取組実績、成果・課題等 | (取組実績) 平成29年度は、対象6筆のうち4筆の用地買収を行った。 | (取組実績) 平成30年度は、2筆の用地買収を行い、取付道路に係る学校用地の取得が完了した。 また、取付道路(仮橋)に係る詳細設計を実施した。 | | |
| | (成果・課題等) 地権者等との用地交渉に不測の日数を要し、58,515,000円を繰り越した。 | (成果・課題等) 取付道路の位置の確定に不測の日数を要したため、土質調査に係る事業費14,000,000円を繰り越した。 | | |

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：G1-4】

| No. | 事業名・担当課・事業目的・概要 | 区分 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|--------------|---|--------------|--|--|
| 5 | <p>(事業名) 【単独】小学校整備事業費(西浦上小校舎等改築) 【施設課】</p> <p>(事業目的) 西浦上小学校は、校舎の老朽化が進んでいることから改築を行うこととし、教育環境の改善を図る。</p> <p>(事業概要) 【事業期間】平成30年度～令和8年度 【総事業量】 ・耐力度調査 ・土質調査 ・登記測量 ・基本・実施設計 ・既存プール解体 ・仮設校舎賃貸借 ・既存校舎等解体 ・新校舎等建設 ・既存屋体解体 ・屋外便所・体育倉庫建設 ・運動場整備</p> <p>【総事業費】4,719,396千円 【事業費累計】7,096千円</p> | 実施年度 | 平成30年度～令和8年度 | |
| | | 成果指標 | 事業進捗率(事業費ベース) | |
| | | 目標値 | | |
| | | 総事業進捗率 | 0.2 % | |
| | | 達成率 | 99.9 % | |
| | | 決算(見込)額 | 7,096,310 円 | |
| | | 当該年度執行率 | 99.9 % | |
| | | 成果指標及び目標値の説明 | 事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率として、成果指標とした。 | |
| | | 取組実績、成果・課題等 | <p>(取組実績) 平成30年度は、建て替えに向けた耐力度調査、土質調査、登記測量を実施した。</p> <p>(成果・課題等) 事業期間内では、予定どおり進捗した。</p> | |
| | | 6 | <p>(事業名) 【補助】中学校整備事業費(外海中学校校舎等建設)</p> <p>【施設課】</p> <p>(事業目的) 外海地区において、新しい中学校の校舎等を旧出津小学校跡地に建設し、教育環境の改善を図る。</p> <p>(事業概要) 【事業期間】平成28～30年度 【総事業量】 ・土質調査 ・実施設計 ・耐力度調査 ・既存校舎等解体 ・運動場等測量設計 ・新校舎等建設 ・運動場等整備</p> <p>【総事業費】1,288,654千円 【事業費累計】1,288,654千円</p> | 実施年度 |
| 成果指標 | 事業進捗率(事業費ベース) | | | |
| 目標値 | 33.9 % | | | 100.0 % |
| 総事業進捗率 | 30.4 % | | | 100.0 % |
| 達成率 | 89.7 % | | | 100.0 % |
| 決算(見込)額 | 387,190,053 円 | | | 855,967,815 円 |
| 当該年度執行率 | 88.4 % | | | 87.3 % |
| 成果指標及び目標値の説明 | 事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率として、成果指標とした。当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。 | | | |
| 取組実績、成果・課題等 | <p>(取組実績) 平成29年度は、既存校舎等解体、運動場等測量設計、新校舎等建設を行った。</p> <p>(成果・課題等) 事業期間内では、予定どおり進捗した。 継続費設定により、50,809,947円を平成30年度に逐次繰越した。</p> | | | <p>(取組実績) 平成30年度は、新校舎等建設、運動場等整備を行った。</p> <p>(成果・課題等) 事業期間内では、予定どおり進捗した。 校舎等及び運動場が完成し、教育環境の改善が図られた。</p> |

基本施策の振り返りシート

| | |
|------|--------------------|
| 基本施策 | G1 次代を生きぬく子どもを育みます |
|------|--------------------|

主管課：学校教育課

| 後期基本計画における5年後にめざす姿 | |
|--------------------|--------------------------------|
| 対 象 | 意 図 |
| 子どもが | 将来の夢や希望を自らの言葉で語り、実現に向けて努力している。 |

| 個別施策 | 後期基本計画策定時の課題 | | 後期基本計画期間の取組み |
|------|---|---|---|
| G1-1 | 知・徳・体の調和のとれた生きる力の育成と時代の要請に対応した学力の定着 | ⇒ | <ul style="list-style-type: none"> ○市学力調査の実施と教職員の資質向上 ○国際理解教育の推進 ○学習支援の充実 ○環境を学ぶ仕組の整備 |
| G1-2 | 基本的生活習慣や基礎体力を身に付けるとともに、規範意識といのちの大切さを学ぶ教育の推進 | ⇒ | <ul style="list-style-type: none"> ○平和教育の推進 ○読書活動の推進 ○健やかな身体づくりと基本的な生活習慣の定着推進 ○キャリア教育の充実 |
| G1-3 | 子どもの豊かな成長のため、学校・家庭・地域が総がかりとなって連携を図る必要性 | ⇒ | <ul style="list-style-type: none"> ○地域の大人の連携の推進 ○学校公開の推進 ○学習支援の充実 ○家庭教育支援の充実 ○幼保小、小中連携推進 |
| G1-4 | 子どもが安全・安心な学校生活を送れるような施設の改修と学校の適正規模化を行う必要性 | ⇒ | <ul style="list-style-type: none"> ○教育環境整備の推進 ○学校における子どもの安全確保の充実 |



| 成果と効果 | |
|---|---|
| 取組みによる成果 | 5年後にめざす姿に対する効果 |
| 全国(中3、小6)、県(中2、小5)の学力調査の結果とともに分析をすることで、小学3年生から中学3年生までの7か年に渡り、個々の児童生徒の課題に沿った学習指導を行うことができた。 | 学力調査を検証軸とした学力向上の取組みが徹底され、学力調査の結果が向上した。 |
| 各学校でのキャリア教育の充実のために「キャリア教育講師人材リスト」の活用等が広まった。長崎のまちの担い手を育てる視点からの長崎の宝発見・発信学習や日吉自然の家での宿泊学習が定着した。 | 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けるとともに、ふるさと長崎に誇りをもち、長崎がもつ世界的な価値を発信できる存在育成に寄与した。 |
| スマートフォン等の通信端末機の使用のルール決めについては、少しずつではあるが理解度が高まっている。 | ルールづくりの重要性の理解度が高まることで、子どもを有害情報や危険から守ることに寄与した。 |
| 教育環境の改善を図るにあたり、各学校において計画に則って施設整備等を実施した。 | 教育環境の改善を図るにあたり、各学校において施設整備等を実施したことで計画的な進捗を図ることができた。 |
| 適正規模・適正配置の基本方針及び実施計画(案)を定め、3地区において学校統廃合を決定した。 | 適正規模・適正配置を行うことでより良い教育環境の提供に寄与した。 |

| 問題点とその要因 | |
|--|--|
| 5年後にめざす姿に対する問題点 | 問題点の要因 |
| 学力調査の結果が、目標値を下回っているため、学力調査後の結果を分析し、改善へのプランを策定することは、各学校ともに行われているが、プランを実践し、成果につなげる部分については不十分である。 | 「学力向上を検証軸とした学力向上への取組み」について、個々の教師にしっかりと再認識させ、指導力を向上するための研修会や学校訪問等による細やかな指導が必要である。 |
| 長崎市独自の取組みが体験活動を中心としているため、学校の教育課程内で効果的に行うための時数の確保が難しい。 | 充実した活動とするためには、事前・事後も含めて十分な時間確保が必要であるため。 |
| スマートフォン等の通信端末機の使用のルール決めについて、児童生徒と保護者との認識の違いが18%ほどある。 | メディア使用のルールについて、保護者が主体的に決めている状況があると推察され、児童生徒が納得して決めたルールになっていないと考える。 |
| 戦後のベビーブームに建設された校舎など、学校施設の老朽化が進んでおり、引き続き安全安心な教育環境の整備が求められる。 | 少子化の進行及び一部の地域においては、団地開発やマンション建設などに伴い、児童生徒数が増加しているため。 |
| 学校の小規模化がさらに進んでいる。 | 適正規模化については、少子化により児童生徒数が減少しているため。 |

市民の評価

| 満足度・期待度 | 評価 | 満足度 | 0.34 | 24 位 / 43項目中 |
|---------|----|-----|------|--------------|
| | 強化 | 期待度 | 1.33 | 5 位 / 43項目中 |

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

【前期計画】

| 指標名 | 基準値 (時期) | 区分 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
|--|-----------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 全国学力・学習状況調査の結果で全国平均以上の項目の割合 | 75% (22年度) | ↑ 目標値 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 実績値 | * | 75 | 37.5 | 25 | 25 |
| | | 達成率 | * | 75.0% | 37.5% | 25.0% | 25.0% |
| 不登校児童の発生率 (小学校) | 0.31% (21年度) | ↓ 目標値 | 0.31 | 0.3 | 0.29 | 0.28 | 0.27 |
| | | 実績値 | 0.33 | 0.24 | 0.30 | 0.30 | 0.42 |
| | | 達成率 | 93.5% | 120.0% | 96.6% | 92.9% | 44.4% |
| 不登校生徒の発生率 (中学校) | 3.16% (21年度) | ↓ 目標値 | 3.15 | 2.95 | 2.75 | 2.55 | 2.44 |
| | | 実績値 | 3.09 | 2.56 | 3.15 | 3.16 | 3.72 |
| | | 達成率 | 101.9% | 113.2% | 85.5% | 76.1% | 47.5% |
| 全国体力・運動能力調査の結果で全国平均以上の項目の割合 | 37.5% (21年度) | ↑ 目標値 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 |
| | | 実績値 | * | 38.2 | 41.2 | 20.6 | 26.5 |
| | | 達成率 | * | 76.4% | 82.4% | 41.2% | 53.0% |
| 【補助代替指標】 全国学力・学習状況調査で、「夢や目標を持っている」と答えた小中学生の割合 ※2 | 78.8% (21年度) | ↑ 目標値 | 81.0 | 82.0 | 83.0 | 84.0 | 85.0 |
| | | 実績値 | * | 82.2 | 83.3 | 77.6 | 78.7 |
| | | 達成率 | * | 100.2% | 100.4% | 92.4% | 92.6% |
| 【補助代替指標】 全国学力・学習状況調査で、「自分に良いところがある」と答えた小中学生の割合 ※2 | 69.8% (21年度) | ↑ 目標値 | 71.0 | 72.0 | 73.0 | 74.0 | 75.0 |
| | | 実績値 | * | 74.9 | 74.2 | 71.7 | 75.0 |
| | | 達成率 | * | 104.0% | 101.6% | 96.9% | 100.0% |
| 【補助代替指標】 全国学力・学習状況調査で、「人の役に立つ人間になりたい」と答えた小中学生の割合 ※2 | 93.7% (21年度) | ↑ 目標値 | 94.0 | 94.5 | 95.0 | 95.5 | 96.0 |
| | | 実績値 | * | 95.7 | 95.1 | 95.5 | 95.4 |
| | | 達成率 | * | 101.3% | 100.1% | 100.0% | 99.4% |

※1 平成23年度は、東日本大震災のため全国学力・学習状況調査と全国体力・運動能力調査は未実施。

※2 施策の目的に対する評価を補完するため、補助代替指標を追加した。目標値は、基準値から毎年度1%増及び0.5%増とする。

【後期計画】

| 指 標 名 | 基準値 (時期) | 区 分 | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 |
|---------------------------------------|-----------------|-------|-------|-------|--------|------|------|
| 夢や目標を持っている 小中学生の割合 | 78.5% (27年度) | 目 標 値 | 79.5 | 80.5 | 81.5 | 82.5 | 83.5 |
| | | 実 績 値 | 76.8 | 77.7 | 77.2 | | |
| | | 達 成 率 | 96.6% | 96.5% | 94.7% | | |
| 自分によいところがある と思う小中学生の割合 | 74.8% (27年度) | 目 標 値 | 75.8 | 76.8 | 77.8 | 78.8 | 79.8 |
| | | 実 績 値 | 74.1 | 75.3 | 82.3 | | |
| | | 達 成 率 | 97.8% | 98.0% | 105.8% | | |
| 難しいことでも、失敗を 恐れなくて挑戦してい る小中学生の割合 | 71.4% (27年度) | 目 標 値 | 72.4 | 73.4 | 74.4 | 75.4 | 76.4 |
| | | 実 績 値 | 70.3 | 72.0 | 調査なし | | |
| | | 達 成 率 | 97.1% | 98.1% | 調査なし | | |

【後期計画の成果指標の検証】

| 成果指標 | 成果指標の検証 |
|-----------------------|--|
| 夢や目標を持っている小中学生の割合 | <p>小学生は83.7%、中学生は70.7%である。「夢や目標」を現実的な職業として捉えているようでもあるため、問いに対して共通理解ができるような啓発を行った。キャリア教育の推進にも力を入れているので、今後成果が見られると思われる。</p> <p>(1) 施策全体の成果を表したものであったか。 ・「5年後にめざす姿」に直結した指標であり、施策全体の成果を表すものであった。 (2) 市が施策を進めることで成果につながる指標であったか。 ・市の施策もこの指標を意識したものであり、内容としては適していたといえる。しかし、心情面を問う調査であるため、右肩上がりの上昇を期待するのは難しい面もあった。 (3) 時代の変化に伴い、さらに適した他の指標がなかったか。 ・学習指導要領が改訂されたことにより、「5年後に目指す姿」の見直しを含め、検討する余地はある。また、全国学力学習状況調査の結果を活用するため、本調査が変更になったりすると影響を受けることになるで検討の必要がある。 (4) 目標値の設定が適切であったか。 ・毎年1%ずつ上昇するという目標値の設定だったが、調査対象者が毎年変わることで、心情を問う内容であることもあり、達成が難しかった。</p> |
| 自分によいところがあると思う小中学生の割合 | <p>小中学校共に8割を越えている。自己肯定感を感じる子供たちが増えていることがうかがえる。自信をつけさせる活動や大人からの励ましや支援などの関わりが効果的であったと考える。さらに高まっていけるよう働きかけたい。</p> <p>(1) 施策全体の成果を表したものであったか。 ・「5年後にめざす姿」につながる自己肯定感を問う内容である。施策全体へつながるものであった。 (2) 市が施策を進めることで成果につながる指標であったか。 ・具体的な何かの施策と結びつくものではなく、各種施策を通じてその結果として表れてくるものである。 (3) 時代の変化に伴い、さらに適した他の指標がなかったか。 ・学習指導要領が改訂されたことにより、「5年後に目指す姿」の見直しを含め、検討する余地はある。また、全国学力学習状況調査の結果を活用するため、本調査が変更になったりすると影響を受けることになるで検討の必要がある。 (4) 目標値の設定が適切であったか。 ・毎年1%ずつ上昇するという目標設定だったが、。実績値は上がってきているが、調査対象者が毎年変わることで、心情を問う内容であることもあり難しいと思われる。</p> |

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している小中学生の割合</p> | <p>平成30年度は、全国学力学習状況調査の質問項目から外れたため、調査結果が残らなかった。令和元年度の調査では再び戻ってきているので次年度は結果の検証ができる。今後は全国調査等に頼らない指標を考える必要がある。</p> <p>(1) 施策全体の成果を表したものであったか。 ・「5年後にめざす姿」につながる前向きな挑戦心を問う内容である。施策全体へつながるものであった。</p> <p>(2) 市が施策を進めることで成果につながる指標であったか。 ・具体的な何かの施策と結びつくものではなく、各種施策を通じてその結果として表れてくるものである。</p> <p>(3) 時代の変化に伴い、さらに適した他の指標がなかったか。 ・学習指導要領が改訂されたことにより、「5年後に目指す姿」の見直しを含め、検討する余地はある。また、全国学力学習状況調査の結果を活用するため、本調査が変更になったりすると影響を受けることになるので検討の必要がある。実際に平成30年度は調査項目からなくなり、令和元年度に復活するということが生じた。</p> <p>(4) 目標値の設定が適切であったか。 ・毎年1%ずつ上昇するという目標設定だったが、実績値は上がってきているが、調査対象者が毎年変わること、心情を問う内容であることもあり難しいと思われる。</p> |
|--------------------------------------|---|

※成果指標の適否の判断基準を参考に成果指標の検証を記載

成果指標の適否の判断基準

- (1) 施策全体の成果を表したものであったか。
- (2) 市が施策を進めることで成果につながる指標であったか。
- (3) 時代の変化に伴い、さらに適した他の指標がなかったか。
- (4) 目標値の設定が適切であったか。

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成29年度開催分)【各基本施策】

| 施策名 | 基本施策 主管課 | 指摘・意見・提案等 | 回答課 | 処理状況 | | | | 令和元年度における対応(予定) ※R元当初予算対応含む | 番号 |
|------------------------------------|-------------|-----------|---|------|------|-----|-------|--------------------------------|----|
| | | | | 完結 | 処理中 | その他 | 具体的内容 | | |
| | | | | 対応済 | 対応不可 | 対応中 | 対応予定 | 検討中 | |
| 基本施策 G1 次代を生きぬく 子どもを育みま す | 学校教育課 | 記載方法等 | ○ 個別施策G1-1にICT(情報通信技術)に関する記載があるが、「ICT」のみの記載では伝わらない方もいると思うので、日本語表記を記載してはどうか。 | ● | | | | | 1 |
| | | | ○ 学習指導要領の改正等により教員の負担が大きくなるなか、どのようなように対応していくのかについて考えを必要がある。 | | | ● | | | 2 |
| | | 教員の負担軽減 | | | | | | | |
| | | | ○ 市には外国人が多く訪れるため、国際都市として英語に力を入れることは大事だと思うが、まずは、日本語力や国語の教育に重点を置くことが重要ではないか。 | ● | | | | | 4 |
| | | | 学校教育 健康教育 | | | ● | | | 3 |
| | | | 学校教育 健康教育 | | | | | | |

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成29年度開催分)【各基本施策】

| 施策名 | 基本施策 主管課 | 指摘・意見・提案等 | 回答課 | 処理状況 | | | | | 令和元年度における対応(予定) ※R元当初予算対応含む | 番号 | |
|-----|-------------|---|------------------------|------|------|-----|------|-----|--------------------------------|-------|--|
| | | | | 完結 | 処理中 | | | その他 | | | |
| | | | | 対応済 | 対応不可 | 対応中 | 対応予定 | 検討中 | その他 | 具体的内容 | |
| | | <p>○ 英語教育について、まずは、外国人に対して英語で道案内を説明できるようにするなど、身近なことから教えてはどうか。</p> | 学校教育 学校教育 課 | ● | | | | | | 5 | <p>学校教育は、国の学習指導要領に基づいて実施しているため、英語の授業計画を大きく変更することはできない。しかしながら、市は、「英語で道案内などのおもてなしができる児童生徒」の育成を目指しているため、道案内の単元を重点的に取り扱ったり、放課後等に希望者を対象として実施している「英語寺子屋事業」において、英語による道案内のスキルを高める学習などを行ったりしており、今後も、生きて働く英語教育に努める。</p> |
| | | <p>○ キャリア教育は有意義だが、子どもが夢や目標を持ったためには、それだけでは不十分であるため、子どもが具体的に夢を描けるような教育に取り組んでほしい。</p> | 学校教育 課 | ● | | | | | | 6 | <p>子どもの夢や憧れを高めるとともに、社会の中で自分のよさを発揮しながら自立できることを期待して、小・中学校に外部人材や専門家を派遣し、様々な職業や法律、金融などに関する関心や興味を高める事業を展開している。小・中学校において、キャリア教育の充実を図り、子どもの社会的自立と職業的自立を促進していくことで、今後も、子どもたちが具体的に夢を描けるような教育に力を入れていく。</p> |
| | | <p>○ ICT活用によるデジタル化によって、情報収集の効率化等が進む反面、ピンポイントとなりすぎて視野が狭くなること懸念されるため、子どもの柔軟な発想も大事にしてほしい。</p> | 教育研究 所 | ● | | | | | | 7 | <p>子どもの柔軟な発想は、児童生徒間や教師と児童生徒の交流、協働体験等の営みの中で育まれる。ICT機器は、あくまでも情報を効率的に収集するための道具の一つと捉えており、ICT機器を協働学習やプレゼンテーションの道具の一つとして利用することで、児童生徒の情報収集能力のみならず情報伝達能力を高め、柔軟な発想の育ちにつなげていきたいと考えている。</p> |
| | | <p>○ 子どもが学校で体操服に着替える際は、男女が別の場所となるよう工夫してほしい。また、乳幼児期からプライベートゾーン(水着着用時に隠れる場所を指す。)の意識を持つことは大事であり、自分の身体を守るという観点からも、そのような意識を子どもにも教育してほしい。</p> | 学校教育 課 健康教育 課 | ● | | | | | | 8 | <p>体操服への更衣については、男女別の教室で行うなどの対応をそれぞれの学校で行っている。 なお、不用意な身体露出が、どのような危険性を含むのか等について教えるとともに、性犯罪等から身を守るための情報を、子どもの発達段階に応じて指導を行うよう学校に働きかけている。</p> |
| | | <p>○ 基本施策G1の成果指標「自分によいところがあると思う小中学生の割合」が74.8%と低い、子どもは自分のよいところに気づかないこともあるので、教員等から積極的に伝えてほしい。</p> | 学校教育 課 | | | | | | ● | 9 | <p>市の「自分によいところがあると思う児童生徒の割合」は全国平均を上回っており、平成29年度より高まっているが、国際的に見ると日本の子どもは自己肯定感が低い傾向がある。そのため、今後も学力の保障や学校行事などにおける個の活躍場面の設定、望ましい学級集団づくりなどを通して、自己肯定感を高める教育の推進を図っていく。また、教職員の人権教育やキャリア教育に関する研修等の中で、児童生徒のよさを積極的に本人に伝えることや個性伸長の在り方等についての指導を継続していく。</p> |

